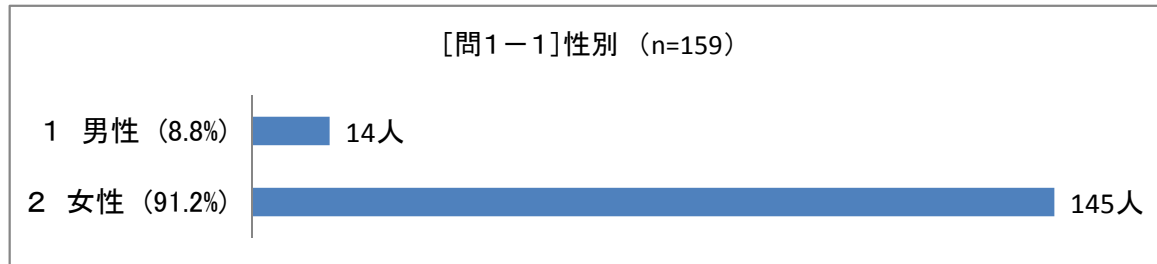


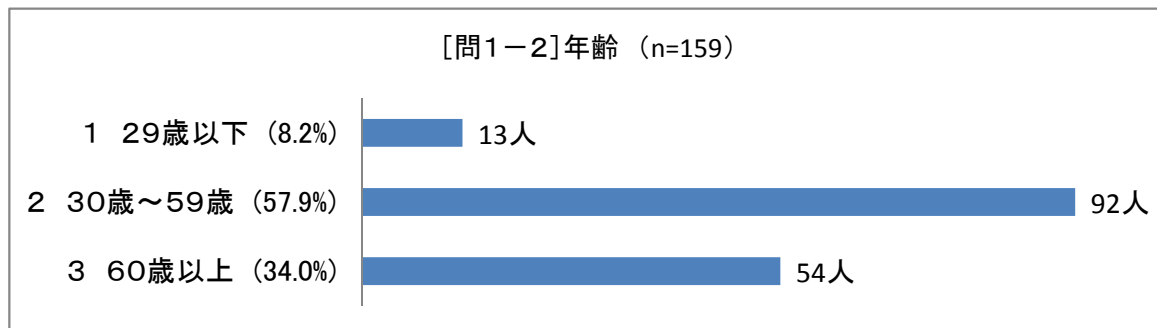
手話に関するアンケート調査結果(手話関係者)

[問1]あなたの性別、年齢を教えてください。

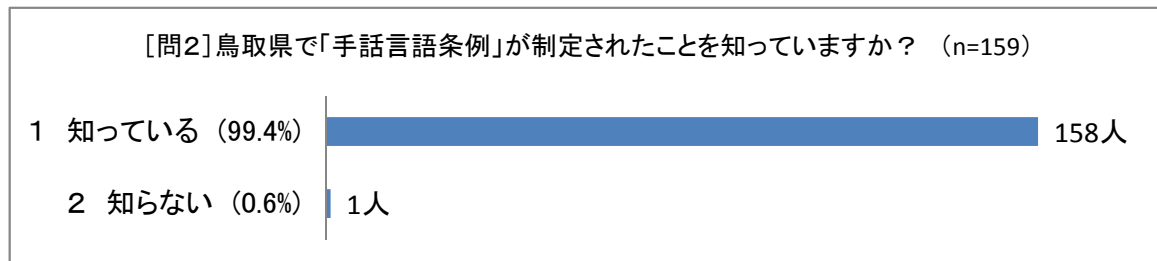
[問1-1]性別



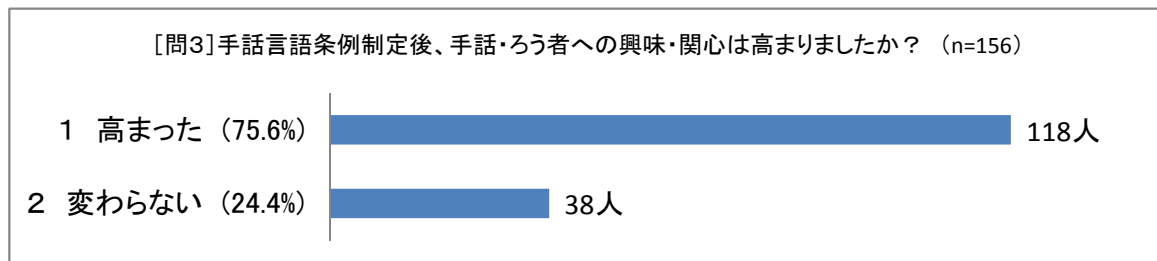
[問1-2]年齢



[問2]鳥取県で「手話言語条例」が制定されたことを知っていますか？

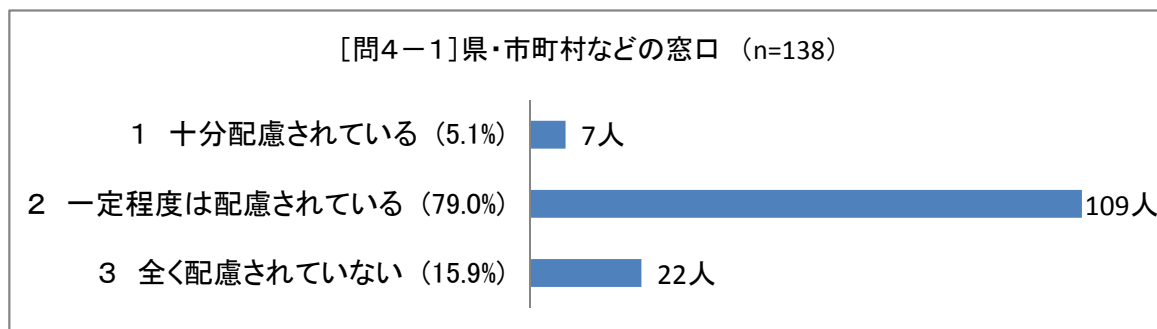


[問3]手話言語条例制定後、手話・ろう者への興味・関心は高まりましたか？

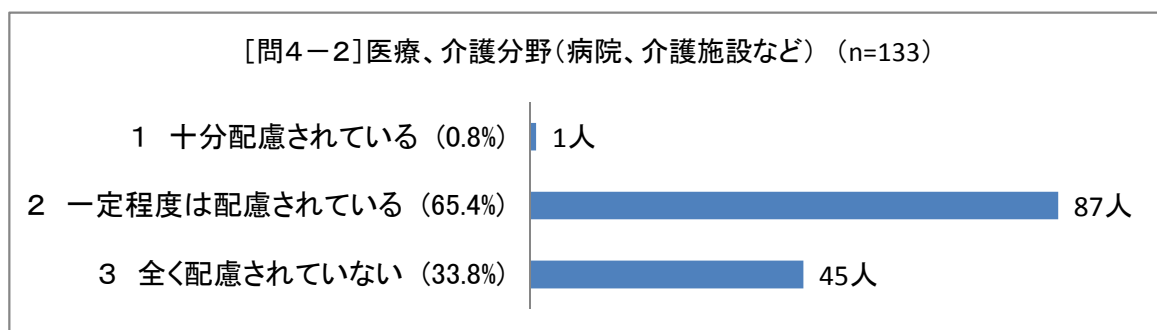


[問4] 職場、行政機関、病院など社会生活の場面で、ろう者に対して、コミュニケーション上の配慮（手話、筆談、字幕など音声以外のコミュニケーション対応）があると感じますか？

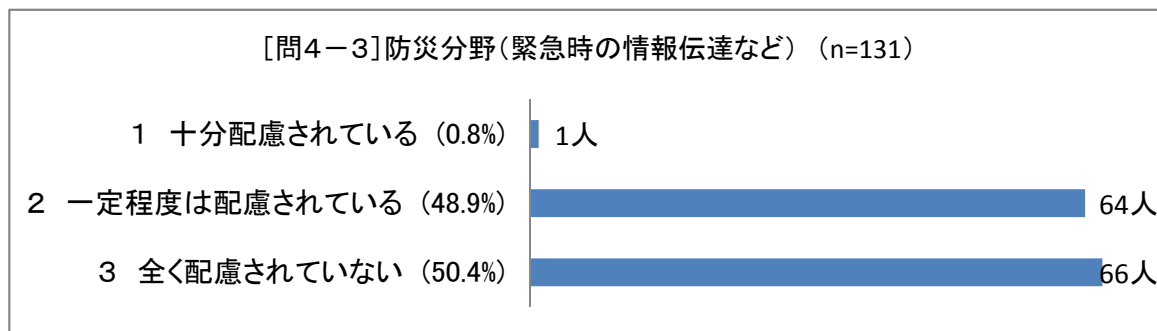
[問4-1] 県・市町村などの窓口



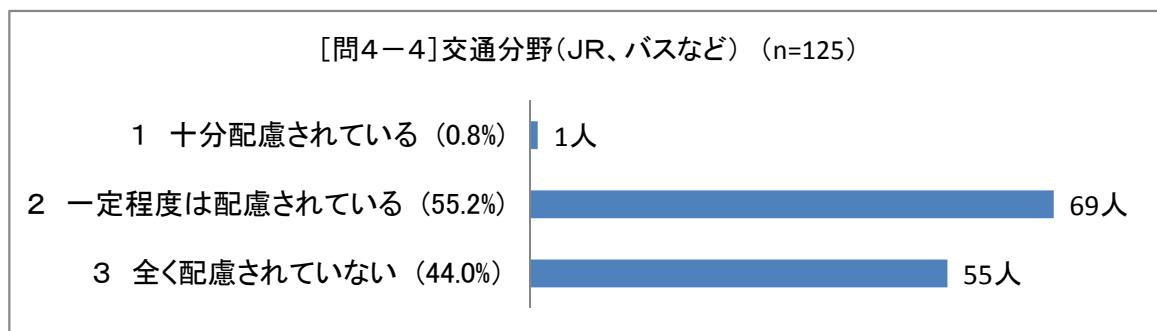
[問4-2] 医療、介護分野(病院、介護施設など)



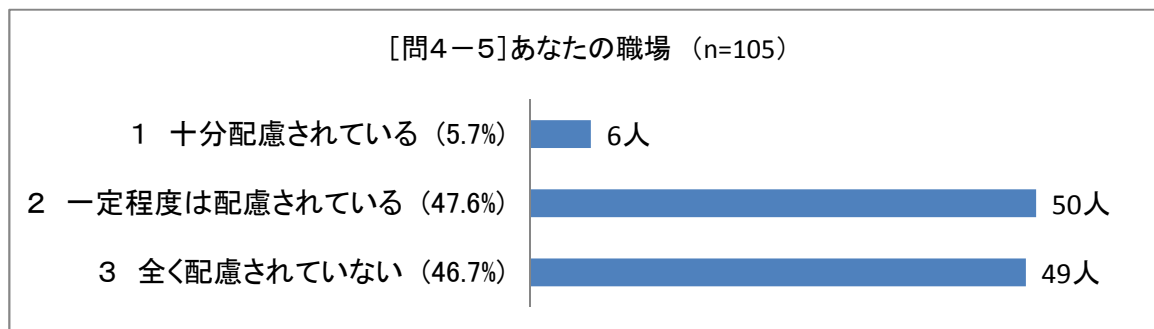
[問4-3] 防災分野(緊急時の情報伝達など)



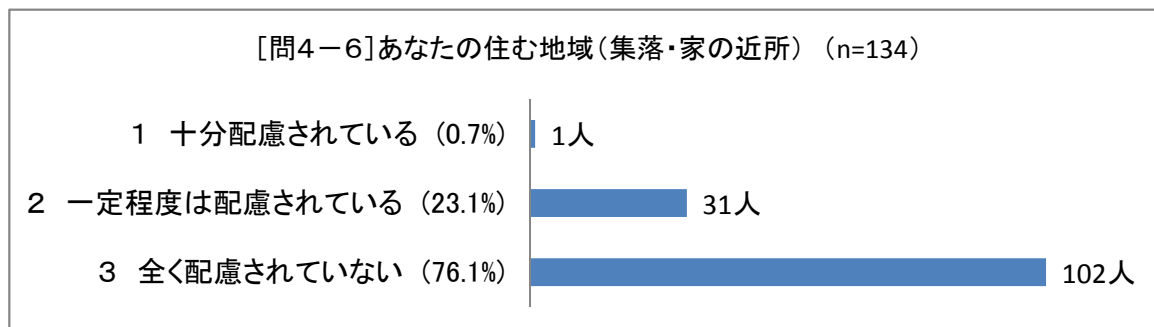
[問4-4] 交通分野(JR、バスなど)



[問4-5]あなたの職場



[問4-6]あなたの住む地域(集落・家の近所)



[問5] これまでに、あなたが見たり、聞いたりした「聞こえる人が手話を知らない、手話への理解がないためにろう者が辛い思いをしたこと、困ったこと」のうち、一番印象に残っていることを教えてください。

(1) 職場・仕事に関する意見 <15件>

(主な意見)

- ・職場の会議に手話通訳がつかず、内容が分からないため、仕事の状況がよく分からない。
- ・職場で仕事の指示書の文章が理解できない。
- ・音声によるコミュニケーションがとれないということだけで、能力を下に見られる。
- ・職場で(音声による)コミュニケーションがとれないため、親しい人ができにくい。「手話が出来ないから」と言って、ろう者を無視して離れていった人がいた。
- ・職場の飲み会に誘われない。

(2) 医療・介護に関する意見 <13件>

(主な意見)

- ・病院の待合で聞こえないことを伝えてあったにも関わらず、呼び出しに配慮がなく、呼ばれたかどうか分からなくて2時間も待った。
- ・インフルエンザや風邪が流行すると、病院・薬局の職員がマスクをするため、口の動きが分からない。
- ・病院で、手話通訳者の同席を断られた。
- ・服薬に関する説明が不十分で適切に服薬できず、血液検査の数値が高いままだった。
- ・重度の知的障害との重複障がいのため、一度も社会へ出ることなく聾学校卒業後に施設へ入所したが、手話を使う機会がなかったため、言葉である手話を忘れてしまった。

(3) 家庭・地域に関する意見 <9件>

(主な意見)

- ・親子でも手話がわからないと深い話ができず、気持ちが通じ合えない。
- ・「身内や周りの人からろう者は何もできないと思われる」と、ろう者から訴えられた。
- ・地域の会合に通訳に行ったとき、話し合いで決まったことは後で知らせるから、次からはろう者も通訳者も来なくて大丈夫と言われた。
- ・町内会費を払っているのに、町内の会合や懇親会、日帰り旅行などに誘ってもらえない。
- ・同じ村に年輩のろう者がいるが、一緒に作業をしても声をかける人が少ない。

(4) 防災に関する意見 <7件>

(主な意見)

- ・災害時に情報が届かず不安だった。知人に出会って初めて、どういうことか分かった。
- ・災害時にどこに避難したらよいか分からず、道を聞いても恐がって逃げられた。
- ・東日本大震災でろう者の犠牲者が多く発生し、避難所でもろう者が孤立していた。

(5) 学校・教育に関する意見 <6件>

(主な意見)

- ・ろう教育に手話が導入されず、長年にわたって厳しい口話教育が続けられていた。
- ・小学校の保護者にろう者がいて、その人が他の保護者とコミュニケーションを取ろうとすると、手話が分からないので逃げるようにして帰る人がいて、ろう者が困っている様子を見かけた。
- ・保護者会で保護者の中にろう者がいることは分かっているのに手話通訳等の配慮がない。

(6) 公共交通機関に関する意見 <6件>

(主な意見)

- ・事故や災害などで公共交通機関(電車、バス)の運行が乱れても、何が起きたのか分からず、その場に取り残された。

(7) その他の意見 <55件>

(主な意見)

- ・講演会の会場でろう者に手話通訳をしていたとき「目の前でゴソゴソ、目障りだ」と言われた。手話通訳者がろう者の耳代わりであるという理解が不足している。
- ・未熟な手話で伝わっていないのに、ろう者の能力が低いという風に捉えられた。
- ・筆談をすれば全て理解してもらえんと思っている人が多く、識字が苦手なろう者がいることがあまり知られていない。
- ・ガイドやツアーコンダクターの話が分からないという理由で旅行ツアーへの参加を断られた。

[問6] これまでに、あなたが見たり、聞いたりした「ろう者に対する聞こえる人の対応で嬉しかったこと」のうち、一番印象に残っていることを教えてください。

(1) 手話以外のコミュニケーション(上の配慮)に関する意見 <40件>

(主な意見)

- ・手話ができなくても、その人なりにろう者と意思疎通を図ろうと、顔の表情や体の動きなどのジェスチャーで一生懸命、伝えようとしてくれた。
- ・分かり易く口を大きく開けて話してくれた。
- ・耳が聞こえないと分かったら、マスクを外してくれたり、筆談で対応してくれた。
- ・最近、郵便局やコンビニなどで気さくに話しかけてもらえるようになった。挨拶だけでもしてくれると嬉しいという話をろう者から伺った。
- ・ろう者の飲み会の際にお店が注文票を特別に作って出してくれた。
- ・美容院で初めてカラーしたろう者に店長がケアの方法を紙に書いて渡してくれた。
- ・町内会が積極的にろう者を行事に誘ったり、地域の人がろう者に声を掛けたりして、良い交流をされている様子をろう者から伺った。
- ・大学の授業に要約筆記等が整備された。
- ・演劇を見に行った時にiPodを貸し出して字幕情報を提供されていて、完全とは言えないが、ろう者も楽しむことができた。

(2) 手話によるコミュニケーションに関する意見 <32件>

(主な意見)

- ・手話が上手なくても、手話で話し掛けられると嬉しいという話をよく耳にする。
- ・手話言語条例が制定されてから、手話の挨拶が多く見られるようになった。
- ・聞こえる人が地域の手話講座で覚えた手話を使って、ろう者とコミュニケーションをとっていた。
- ・聞こえる人が手話を覚えてろう者と話がしたいと言って、ろう者から手話を学んでおられた。
- ・友人が手話に興味を持ち、手話サークルに通い始めた。
- ・「コンビニで道を尋ねたら店員さんが手話で道を教えてくれて嬉しかった」といったことを耳にするようになった。こういうことが当たり前になる世の中を早く実現したい。
- ・病院の看護師さんがろう者と意思疎通を図るために一生懸命、手話を学んでおられた。

(3) その他の意見 <16件>

(主な意見)

- ・ろう者を1人の人間として尊重し、障がいがあっても普通に接してくれた。
- ・ろう者が何も知らないのではなく、健聴者がろう者の訴えを聞き取る(知る)ことができていなかったと気付いてくれた。
- ・近所の方がろう者を自分の会社に紹介し、就職が決まった。
- ・ろう者が就職された後、そのろう者のことを会社が評価してくれて、責任ある仕事を任された。

[問7]これまでに、あなたが経験した「手話通訳又は手話学習を行う中で困ったこと」のうち、一番印象に残っていることを教えてください。

(1)手話通訳を行う中で困ったことに関する意見 <44件>

(主な意見)

- ・聞こえる人が早口だったり、ろう者の手話表現が速くて、上手く通訳できないことがあった。
- ・原発事故の講演会の手話通訳において、自分自身が原発の仕組みを理解できていなかったの、上手く通訳できなかった。
- ・医療場面の通訳において、ろう者の情報不足から必要な治療について十分理解してもらうことができず、治療拒否になり、命が救えなかった。
- ・手話通訳には「正解」がないので、後から「あの手話表現で良かったのだろうか、他にもっと良い表現方法があったのでは・・・」と考え込んでしまうことがある。
- ・講演会の通訳において、手話通訳が見やすいように配慮された情報保障席が確保されておらず、また、途中から舞台が暗くなり、手の動きや表情が見えないのではないかと思うことがあった。
- ・手話通訳に対する理解がなく、1人で1～2時間の通訳を頼まれたことがあった。また、手話通訳を依頼する際は、出来るだけ事前にシナリオなどの資料を提供して欲しい。
- ・「これはここだけの話なので通訳しなくていい」と言われたり、ろう者ではなく通訳者の方ばかりを見て話す人がいて困る。
- ・ろう者が参加する行事の練習において、聞こえる人がろう者に対して「少しは聞こえるの?」、「手話を使わずに声を出してください」と言われ、その言葉を通訳するのが辛かった。少しでもろう者のことを理解して欲しいと思い、手話言語条例のパンフレットをお渡した。聞こえないとはどういうことなのかを知ってもらうことと、手話の普及は不可分だと思った。

(2)手話学習を行う中で困ったことに関する意見 <44件>

(主な意見)

- ・サークルで手話を勉強しているが、日常生活の中で手話を使う場面が少なく、なかなか上手にならない。ろう者と交流できる機会がもっと沢山あると嬉しい。
- ・まだまだ勉強不足なので、ろう者とコミュニケーションをとる時に分からないことが多く、相手の方は楽しくないだろうなと心苦しく感じる。もっと手話を使いこなせるようになりたい。
- ・地域や年齢により、ろう者一人一人の手話表現が異なるので、覚えることが多くて難しい。
- ・手話には方言のような地域による表し方の違いや、人によるクセがあるが、それを認めず「正しい表し方はどれか?」と追及する人がいる。
- ・昼間仕事をしているので手話講座を夜間に開催して欲しい。以前、入門講座(夜間)を受講したことがあるが、内容も充実していて手話のレベルアップが図れるので検討して欲しい。
- ・平日昼間の講習会には子どもが学校に行っている間なので参加できるが、夜間や土日の講習会には子供の世話をする人がいないので託児がないと参加できない。

(3)その他の意見 <10件>

(主な意見)

- ・ろう者に何かを伝えようとする時、手話表現が分からなくて伝わらないことがある。そんな時、ろう者の伝わらないが故の苦しみやもどかしさなどを考えさせられる。
- ・手話言語条例の制定により、聞こえない人は手話を使うというイメージが強まったように感じるが、高齢や重複の聴覚障がい者の中には手話が使えない人もいる。その方達が社会と関わりを持ちながら、安心して暮らしていけるための支援が置き去りにされてはならない。